はないが、元よりスタデーに過ぎぬから唯有の儘を寫生と統一はないが、元よりスタデーに過ぎぬから唯有の儘を寫生生籍肩にして飛出したが、豫想してゐた場所は一も面白くなく、生籍肩にして飛出したが、豫想してゐた場所は一も面白くなく、生籍肩にして飛出したが、豫想してねたる。形にも色に はないが、元よりスタデーに過ぎぬから唯有の儘を寫生して置た。

日は漸く高く華やかな光線が射してぬたが、夫でも冷かい感は日は漸く高く華やかな光線が射してぬたが、夫でも冷かい色で(自一體に行渡つてぬた。寫生の仕方は例の通り、明るい色で(自一體に行渡つてぬた。寫生の仕方は例の通り、明るい色で(自一體に行渡つてぬた。寫生の仕方は例の通り、明るい色で(自一體に行渡つてぬた。寫生の仕方は例の通り、明るい色で(自一體に行渡つてぬた。富貴の森には僅かのホワイトにインデゴー。中景の木にはインデゴー、エローオークル、ウォルトラマリン。杉の林には大等の彩料のほか ライトレッド、バアントシンナ。雪の陰はコバルト、ニュートラルチント。家の明るトシンナ。雪の陰はコバルト、ニュートラルチント。家の明るかははインデゴー、ニュートラルチント、ヴェルミリオンの別にはインデゴー、ニュートラルチント、ヴェルミリオンの別で、暗き隆は低してインデアンレッドにウォルトラマリンを類で、暗き隆は低してインデアンレッドにウォルトラマリンを

なといふ観念を去て虚心に観察せればならぬ。他の物體の色とさて雪景を寫すにつき注意すべきとは、先づ雪は白いものであ

比較して見れば真の白い處は極めて僅少で、他は皆懸分か宛難と見えても其實甚しく暗いものである。木の枝に積れる雪を下が直射すれば稍紅色に見え、夕には橙色若くは黄色に見える。が直射すれば稍紅色に見え、夕には橙色若くは黄色に見える。が直射すれば稍紅色に見え、夕には橙色若くは黄色に見える。影は橅して暗き空色の鼠で、それも反射の情態で種々變化がある。若し雪は白いものであると思つて、景色畵に大切なる光線の色や反射の理を無視して筆を執つたなら、其繪には奥行もなければ調子も合はず、到底自然の感を現はすとが出來ねであらう。

を正しく寫して置かねばならぬ。又雪の積れる枝と枝との間に空の透けて見ゆるを描き出すとは困難であるが、ホワイトを用いずに注意して 叮嚀に描くので ある。パレツトにある 同一の色を塗つても、第一筆と第二筆とでは時間の爲めに濃淡が出來る、このやうな場合には後に補修するより他に道はない、それは清い水と柔かな刷毛で洗つて、極淡い色を幾度も塗るか、又はは清い水と柔かな刷毛で洗つて、極淡い色を幾度も塗るか、又はは清い水と柔かな刷毛で洗つて、極淡い色を幾度も塗るか、又はは清い水と柔かな刷毛で洗つて、極淡い色を幾度も塗るか、又はは清い水と柔かな刷毛で洗つて色調を合せるのである。